

こんどはどんな汁がとれるかな。

J

汁のとり方や汁の見方について話し合う

- やつぱり花の色と同じ色だよ。
- 水を入れるとこいのがうすくなるよ。
- やってみないとわからないな。
- 児童は汁の特徴について色の面からだけ見ようとしている。そこで、どんな汁といった時、色だけでなく他のことで調べられないかなと発問した。
- においもあるかもしれないよ。
- 手でさわってもいい。
- 色だけでなく、においや手触りなど五感をフルに使って調べていこうと話合った。

自分で準備して色水づくりを始めよう。

K

集めた草花や実をつかって汁をとりとれた汁を観察する

- ぼくね、シソでやったらむらさき色がとってもこいよ。先生、シソのにおいもあるんだよ。
- ブドウの実（ヨウシュヤマゴボウ）はむらさきでないでしょ。でも汁はむらさきなんだよ。
- くきのへんでも、こい色水になったよ。
- 1つの植物を水の量を変えながら、何度も汁を取り出している児童もいる。そして、机の上にそれをならべて満足そうな様子である。
- ぼくのは、リンゴのにおいがする。
- 先生、いいにおいとわるいにおいがするのがあるんだね。
- 汁をとったら、手がこんなになった。（ヨウシュヤマゴボウの赤い汁を手をいっばいつけながら）
- はじめは、汁の色にだけ注目していた児童たちも、やがて汁のにおいや、手につく汁に意識を向けていった。児童は、植物の汁について多様な見方ができるようになったと思う。



写真6  
色水の色に注目しているS子

くだものや野菜からだって汁はとれるかもしれないね。この次は、くだものや野菜から汁をとってみようね。

第5時は、家からもってきたくだものや野菜を使って色水づくりをした。児童はこれまでの経験から、何もいわなくても色、におい、手触りなどを確かめていった。

また、汁を取り出す方法も、これまでのたたく、しぼるの他に、擦ったり、切ったり、つぶしたり、ガーゼを使用するなど、くだものや野菜に適したとり出し方を工夫していくことができた。